

鎌田和彦(オープンハウス副社長)が大山多賀男から 引っ張った7000万円はどこに消えたのか？

「“返さなければならない法律関係にはない”と 居直った鎌田和彦」

<返さなければならない法律関係にはない！>

裁判所での鎌田の主張と言えば、専ら、
「当初、大山のカネが犯罪収益だったとは、知らなかった」
と述べ、私の投稿と敬天新聞の記事の書きぶりが、「鎌田が最初から大山の犯罪
収益と知っていたかのような記述だから、全部削除せよ」という主張を述べて
いた。

裁判的にはそれでいいのかもしれないが、世の中的には、

「だったら、すでに知ってから5年以上経つんだから、道義上、大山の振込詐
欺の被害者に対し、何らかの救済策について検討するべきではないのか？」

「それも、カリスマ経営者と名高い鎌田であれば、身銭を切っても被害者を救
済して当然ではないのか？」

「東証1部上場企業の経営者として、経営のプロを自認するなら、しかるべき
説明責任があるのではないのか？」

ということを言いたかったのである。

しかし、鎌田にはそのような考えは全くなく、「返さなければならない法律関
係にはない」と冷たく居直った。弱者・犯罪被害者をおもんばかりという感覚
が全くないのであろう。

当たり前のことであるが、振込詐欺事件の多くは、高齢者が近親者に対して
抱く純粋な感情を逆手にとる極悪非道の犯罪であり、いま最も社会を蝕む犯罪
に上げられる。

まして、大山多賀男というのは、その中でも首謀者であり、反社会勢力のト

ップにいる人物である。

東証1部上場・オープンハウスの副社長が、そのような人物と関係があっただけでも問題なのに、実際、7000万円近くのカネを引っ張り、使っておきながら、「使った時は知らなかったから、返さねーよ」というのは、許されないと私は考える。

ちなみに、

鎌田は、大山多賀男からカネを引っ張って使ったけど、そのカネが振込詐欺の犯罪収益だということは、少なくとも、事件発生時までは知らなかったということは、鎌田の名誉のためにも記しておく。

しかし、少なくとも、週刊文春の記事が出た2013年1月には、「知った」ことを裁判で自ら認めている。鎌田が「知った」のは、すでに5年以上も前のことである。

大山の振込詐欺事件では、もうすでに、亡くなられた高齢の被害者の方も多いただろう。また、現存する方々も、被害弁済を待つに十分な時間がないのである。

鎌田は、そんなことよりも、大好きなワインとフランス料理に興味があるようだ。最近では、アトラエの株で大当たりしたり、副社長のオープンハウスでは運転手つきで、当然何千万もの高額報酬をもらっている超富裕層様なのである。

一方、被害者である高齢者の多くは、財産の多くを失い、一家離散や人知れず自殺した方も少なくないであろうことは、容易に想像できる。

オープンハウス副社長ほどの地位にもなると、そのような弱者に対して思いやることなどできないのだろうか？

鎌田は、心が痛まないのだろうか？

<大山の振込詐欺事件の強制捜査現場にいた鎌田子飼いの玉村秀春（エステキャリアスタッフ）！>

また、鎌田は、

「使ったカネが犯罪収益だったと最初に知ったのは、（事件発生）翌年の週刊文春の記事だ」

と言っているが、この主張を信じることはできない。

少なくとも、投稿者である私とは事件直後に2回面会しており、その時には私も含め事件の詳細は知らなかったが、マスコミの記事を収集しており、大き

な詐欺事件じゃないかということくらいは知っていたはずである。

何より、強制捜査の数ヶ月後（事件発生前）には、大山の巨額詐欺事件の取り調べで、なんと、子飼いの玉村秀春自身が、合同捜査本部の事情聴取を受けたそうだ。

玉村は今回の裁判の証人尋問で、以下の証言内容を述べている。

つまり、鎌田子飼いの玉村秀春（元インテリジェンス、現エステキャリアスタッフ代表）は、事件発生時には、なんと大山の事務所にいて警察の強制捜査の対象になっていたというのを、玉村本人が認めたのである。

そして、この事件に絡んで、数か月後には複数回の事情聴取を受けているというのだ。それなのに、玉村と頻繁に連絡を取り合っていたはずの鎌田が、事件から1年近く経って文春の記事で初めて知ったというのは、あまりに不自然である。

これらの争いは、現在係争中につき、また改めてご報告する。最終的には裁判所の判断には従うことになるが、裁判だけでは全く事実が判明しないということも素人ながらよく分かったので、よい教訓にして、今後はより丁寧に事実と疑惑について書いていきます。

<最後に>

1審の口頭弁論の最終日に、小川先生の尋問があったけど、白倉社主を怒らせようとケンカ腰で必死にカマかけてて、それを見てたら、とても弁護士としての品格があるとは思えませんでした(笑)

その後の投稿者に対する尋問でも、同じようにケンカ腰で品性の欠片もないものの言い方でしたが、「結局、そんなことしかできないんだな～」ってことは、よく分かりました。

弁護士が依頼者のために最善を尽くすのは当然ですが、それなら野崎と鎌田が法廷で事実を述べるのが、一番鎌田のためになるはずではないでしょうか？しかし、改めて鎌田を追及する必要性を再認識できましたから、先生にはお礼を申し上げるべきかもしれません。

そんなことより、現在、鎌田本人の証人尋問の申請をしています。採否は今のところ分かりませんが、採用されたら「事件番号・日時・場所」をお伝えしますので、興味のある方は、是非きてください。

一応、知り合いのマスコミの人間には伝えてあって、来るって言ってますから、そうになったらおもしろいと思います。

【今後のテーマ】

鎌田和彦（オープンハウス副社長）が大山多賀男から引っ張った7000万円はどこに消えたのか？

- ・中央サービス（小倉義美）の不満分子が独立を企む
- ・箱会社でネオクリエイト（阿部・今野）を買収 アビリティに商号変更
- ・野崎勝弘の仲介で大山から7000万円引っ張る
- ・野崎勝弘と元嫁・松下紀子（日清オイリオ創業家、旧姓・野崎）
- ・SBI（当時）木下玲子からもファクタリング
- ・エピソード田中宏彰の違法登記
- ・エステキャリアスタッフ玉村秀春
- ・アビリティメディカルケア
- ・アートクラフトサイエンス
- ・ルール・エ・ラ・マニエール（K&Y・吉岡）
- ・ライフドリーム
- ・オープンハウス
- ・アトラエ
- ・PR TIMES
- ・記事差し止めで、指定暴力団の現役幹部が動いた事実
- ・合同捜査本部の取り調べを受けた鎌田和彦と玉村秀春